

# 札幌市環境審議会 生物多様性部会（第6回）

## 会 議 録

日 時 : 平成24年10月3日（水）午前10時開会  
場 所 : 札幌市役所本庁舎 14階 1号会議室

## 1. 開 会

○事務局（大江環境共生推進担当課長） おはようございます。朝早くからご苦労さまでございます。

皆さんおそろいになりましたので、若干早いのですけれども、始めさせていただきたいと思えます。

ただいまから、札幌市環境審議会生物多様性部会第6回会議を開催いたしたいと思えます。本日は、ご多忙の中、ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

本日の会議は、5名の委員の皆様が全員出席ということで、札幌市環境審議会規則第4条第3項の規定によりまして、この会議が成立していますことをご報告いたします。

## 2. あいさつ

○事務局（大江環境共生推進担当課長） 最初に、会議の開催に当たりまして、環境管理担当部長の木田より、一言、ごあいさつを申し上げます。

○木田環境管理担当部長 皆様、おはようございます。

環境管理担当部長の木田でございます。

本日は、大変お忙しい中、生物多様性部会第6回会議へご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

会議の開催に当たりまして、一言、ごあいさつを申し上げます。

皆様には、（仮称）生物多様性さっぽろビジョンの素案につきまして、たくさんのご意見をいただいております。まことにありがとうございます。事務局では、いただいたご意見を踏まえまして、鋭意、素案の修正を重ねてきたところでございます。そして、当初の予定どおり、今回の会議をもちまして、昨年度から全6回を予定しておりました生物多様性部会は、最後となる予定です。本日、委員の皆様には、この素案の最終確定に向けてご審議をいただきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日も、専門的なお立場から忌憚のないご意見をいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

次に、去る9月26日に開催されました平成24年度第3回札幌市定例市議会におきまして、市民ネットワーク北海道の伊藤議員から、遺伝子組換え作物の自生について、遺伝子組換え作物を輸入した港で、こぼれ種が自生しているという趣旨での代表質問がありまして、それに関連いたしまして、（仮称）生物多様性さっぽろビジョンについて、副市長から次のように答弁をしておりますので、参考にご紹介をいたしたいと思えます。

タイトルとして、今お話ししましたとおり、「遺伝子組換え作物の自生について」ということで、数点質問が来ておりましたが、その中で2点ございまして、（仮称）生物多様性さっぽろビジョンの策定状況についてということで1点、もう1点が、このビジョンへの遺伝子組換え作物の自生対策の盛り込みについてということで、ご質問がありましたので、簡単にご説明いたします。

まず、ビジョンの策定状況につきましては、市からの答弁として、このビジョンは、生物多様性基本法に基づき策定するものであり、札幌市の生物多様性に関する長期的な指針として、理念や目標、施策の方向性などを示すものです。そして、現在、環境審議会の生物多様性部会で素案の審議を行っているところであり、1月までにパブリックコメントを行った上で、今年度中に策定してまいりたいと考えているというふうに答えております。

次に、ビジョンへの遺伝子組換え作物の自生対策の盛り込みについてという趣旨の質問についてですけれども、本ビジョンでは、交雑による遺伝子攪乱の可能性や、国の対策などを取り上げ、自生などによる生物多様性への影響の防止に向けて、遺伝子組換え作物やその規制に関する知識の普及啓発に努めていくことを想定していますというような趣旨で答えております。

以上、簡単ではございますけれども、冒頭のあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（大江環境共生推進担当課長）　続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきますと思います。

机の上にお配りしてございます。まず、次第と座席表、委員名簿でございます。

資料1として、第5回会議で出された意見及び対応状況という五、六ページほどのものがございます。それから、資料2として（仮称）生物多様性さっぽろビジョンの素案です。これについては、前回の会議で委員の皆様からいただいたご意見を踏まえまして、また、庁内関係部局との協議を重ねて修正を行ったものとなっております。最後に、資料3として、ビジョン策定への検討スケジュールとなっております。

以上ですけれども、足りない資料等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。座って失礼いたします。

本日の会議は、部長あいさつの中でも申し上げましたとおり、部会としての審議は今回が最後となっております。

本日は、今月末に予定しております環境審議会の全体会議での最終報告に向けて、素案の内容をおおむね確定していただければと思っております。今回も限られていた時間の中での議論となりまして大変恐縮ではございますけれども、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、これより議事に入りたいと思います。

この後の進行につきましては、村野部会長にお願いいたしたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 議　事

○村野部会長　それでは、早速、議事を進行していきたいと思っております。

次第に従いまして、まず、前回会議での意見の概要と、その対応状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 生物多様性担当係長の金網です。

私から、前回の素案に対していただきましたご意見と修正内容などにつきまして、ご説明させていただきます。

20分ほどのお時間をいただきますけれども、よろしく願いいたします。

座って失礼いたします。

まず、資料1をご覧くださいと思います。

こちらの資料に、前回いただきましたご指摘と対応状況、修正内容についてまとめてございます。なお、資料1の中には、会議の後にいただいたご意見なども含めて、今回、修正にかかった箇所をまとめて記載しております。

初めに、ビジョン全体を通してですけれども、資料に記載のとおり、文字の大きさや写真に説明を添えることなどについてご意見をいただいております。これらの点につきましては、一通り修正を行ってきているところですが、不十分な点などがございましたら、改めてご指摘くださいますよう、お願いいたします。

それでは、第1章から順番にご説明してまいりたいと思いますが、この後は、主に資料2のカラーで閉じている冊子をご覧くださいながら、今回、修正を行いました修正箇所全体を確認いただきながらご説明してまいりたいと思います。

適宜、資料1もご参照いただければと思います。

それでは、資料2の2ページ目をご覧ください。

まず、2ページ目につきましては、下にあります写真について、何か意味を持たせたいとのご意見を踏まえまして、事務局としましては、過去からの命のつながりや歴史性、または、生き物同士の命のつながりということイメージしまして、左上には、カツラの巨木、右下には、アリとマユミの2枚の写真の差しかえを今回行っております。

右側の3ページ目につきましても、写真の差しかえということですが、なるべく人工的なものは避けまして、時計回りに春夏秋冬の四季の移り変わりを表現するようにいたしました。

次に、4ページ目をご覧ください。

こちら、写真の差しかえになりますが、3つの多様性につきまして、それぞれ円山、真ん中がカタクリの群生、一番下のオオルリオサムシ、この3枚の写真について変更を行っております。

5ページ目は、四つの生態系サービスについてですけれども、こちらは、イラストから写真に変更を行いました。また、生活の糧というところの説明文につきまして、遺伝資源という言葉がわかりにくいというご指摘を受けまして、その言葉自体の削除を行っております。

次に、6ページ目をご覧ください。

このページにつきましても、本文の下にイラストがありましたが、それを写真に変更しております。本文の内容を踏まえまして、写真のイメージとしましては、親から子に将来

の世代へ札幌の豊かな自然を引き継いでいくイメージをあらわしております。

右側の7ページについては、イラストの修正ということで、私たちが普段消費しているような日用品が生産される裏で、世界的に失われている可能性がある森林やゴリラの生息地などを黒い影絵であらわすように修正を行っております。

次に、8ページになります。

このページでは、理念の3番目の文章の修正を行っております。前回の案では、生物多様性を多様な主体が対話を交わすための社会的基盤として活用するというふうに表現しておりましたが、わかりにくいとのご指摘を受けまして、今回、多様な主体が生物多様性を活用して互いの対話や結びつきを広げ、まちづくりや社会経済活動の活性化に貢献しますというふうに表現を改めております。

また、その下の写真についても、差しかえを行いますとともに、なるべく大きく、かつ、写真の説明も付記するようにいたしました。

続いて、第2章ですが、11ページをご覧ください。

11ページでは、コラムの中の図3、環境基本計画の体系図がわかりにくいというご指摘がありまして、この図を簡略化しますとともに、文字についても大きくするように修正を行っております。

次に、12ページですけれども、前回の案では、目標年次の説明文のすぐ下に、愛知目標についてのコラムを記載しておりましたけれども、愛知目標についての文字が小さいというご指摘を受けまして、右側の13ページに移動しまして、文字を大きく記載するようにしております。

また、コラムの移動によってあいたスペースには、目標年次であります2050年まで、約40年間という年月の長さを視覚的にあらわすことを意図しまして、約40年前と現在の大通公園の写真に掲載するようにいたしました。

続いて、14ページをご覧ください。

こちらでは、図5の意味がわかりにくいという意見をいただいております。

そこで、コラムの本文の第1パラグラフに、国家戦略のグランドデザインに関する記述を入れますとともに、図5のタイトルも修正を行いまして、これが国家戦略における生物多様性の回復イメージであるということを明示するようにいたしました。

続いて、右側の15ページです。

まず、本文についてですが、上から2行目のところですが、連携する対象が自治体だけとは限らないということがありますので、本文の2行目のところで周辺自治体等という言葉を入れて修正を行っております。

また、図6の連携の事例ですが、前回、札幌水源の森づくりという事業を挙げておりましたが、それについては、市内で行われている事例であって、この中で示すのは違和感があるというご指摘を受けまして、今回、茨戸川清流ルネッサンスⅡ地域協議会の事例に差しかえを行っております。

なお、連携の事例につきましては、今行われているものだけではなく、今後連携すべき内容を挙げることもできるというご指摘もいただいておりますが、事務局としましては、連携のテーマだけではなくて、具体的な連携の形も紹介させていただきたいと考えまして、既存の事例の中で差しかえを行っております。

また、外来種対策についても連携の事例はないかというご意見をいただきましたけれども、協議会といったような目に見える形での連携事例はございませんでした。

続きまして、16ページになりますけれども、ゾーンの設定について記載しておりますが、この表1だけではなくゾーニングの図も同時に見せた方がよいということで、17ページに図7を移動してきております。

また、この地図の中での位置関係がよりわかるようにということで、市役所と区役所をランドマークとして記入するようにいたしました。

次に、18ページになります。

こちらは、世界と日本の動きの表2の修正ですけれども、世界の動きにつきましては、一番下に、今月、インドで開催されますCOP11を記載し、日本の動きについては、2010年のところに国家戦略2010の策定を新たに記載しております。

続きまして、第3章になりますけれども、19ページのサケの写真については、写りのよいものに変更を行いました。

次に、21ページをご覧ください。

21ページでは、図9について修正を行っております。

まず、位置関係をわかりやすくするため、先ほどと同様、市役所と区役所の位置を記入しつつ、河川につきましては、細かい水脈を削除しまして、豊平川のみを表示するようにいたしました。

また、本文の中で大きく四つの地勢に区分されるという記述に沿いまして、図9の右下に丘陵と台地を一つの枠の中で説明するように変更を行っております。

続いて、22ページですけれども、明治以降の札幌の土地利用の変化について、レイアウトを変更いたしまして、2ページの見開きで各年代の地図を拡大して示しますとともに、各年代の説明文もそれぞれの地図ごとに記載するようにしてわかりやすくしております。このページについては以上です。

次に、25ページをご覧ください。

こちらは、図12を生態系の多様性の説明本文の下に移動しますとともに、ゾーンの区分について、右下に凡例の形で示すようにいたしました。

なお、こちらの図については、かなり複雑になりますので、ランドマークなどの位置関係をあらわすものについてはここで記載しないようにしております。

続いて、26ページから各生態系の説明になりますけれども、生態系の詳細について、前回会議でのご意見を受けまして、資料編の86ページから90ページに掲載しております。

また最後にご確認いただきたいと思いますが、このページの中では、まず、自然林について円山原始林の写真を掲載し、二次林については、有明の滝の写真を新たに差しかえて入れております。

また、27ページでは、人工林の説明文につきまして、2行目のところで、適切な管理をしなければ林床植物が少なくなるためという一文を挿入して、修正を行っております。

続いて、少しページを飛ばしまして、31ページをご覧くださいと思います。

このページでは、希少種について、博物館活動センターからエゾノハナシノブの写りのよい写真をいただきましたので、本文の中に入れますとともに、写真もサルメンエビネから差しかえを行っております。

また、アライグマの写真について、しっぽまで全身が写ったものという意見をいただいております。今回は間に合いませんでしたけれども、今後、写真を入手できたら、差しかえを行いたいと考えております。

続いて、33ページの遺伝子の多様性になりますけれども、こちらでは、修正には至らなかったのですが、紹介する事例について、なるべく野生生物にシフトして表現できればよいというご意見をいただいておりますが、4ページで紹介しましたオオルリオサムシ以外になかなか適当な事例がなく、前回と同じく、伝統品種の例としまして、札幌黄の事例を載せております。

次に、35ページをご覧ください。

ここからは、各ゾーンの特徴について現状と主な生態系を述べておりますが、前回、この現状と主な生態系の説明順序を逆にしてはどうかという意見をいただいております。先に主な生態系を紹介した上で、それがどのような状況になっているかを現状で述べる流れにしてはというご指摘だったと思いますけれども、現状の中で説明している内容が主な生態系以外のことも含んでおりますことから、先に現状を説明した上で、その中で現在の主な生態系がどのようなものかということを紹介した方がいいのではないかと判断しまして、もとのままとしております。

次に、36ページをご覧くださいと思います。

36ページから37ページにかけてまして、まず、36ページでは、樹林地という文言について、自然林や二次林に用語を統一したり、現状の説明の中で推測的な表現を行っていた部分について、見直しをするなどの修正を行っております。

続いて、39ページの各ゾーンをつなぐ生態系についてですけれども、ここでは、河川だけではなく、緑のつながりと、川と緑をつないでいくという考え方を出していった方がよいというご意見を踏まえまして、このページの中では修正を行っておりませんが、次の40ページの課題の一番下に2行ありますけれども、水と緑のネットワークを形成して、連続性の確保を図っていく必要があるということで新たに記載を行っております。

なお、緑の連続化につきましては、一方で、野生生物とのあつれきや外来種の拡大などにつながるデメリットもあるという指摘もあわせていただいております、その点につき

ましては、ここで同時に述べると方向性がわかりづらくなるだろうということで、56ページの望ましい姿や63ページの施策の柱の中でネットワークを実際に形成するときの留意点という形で記載をしております。

該当の箇所につきましては、またページが来ましたら後ほどご説明いたします。

次に、41ページですけれども、外来種対策と遺伝的攪乱対策のイラストがわかりにくいという意見を受けまして、今回の外来種対策につきましては、予防3原則の内容を載せるようにいたしました。

また、遺伝的攪乱につきましては、イラストの下に説明の文章を加えております。

次に、42ページになりますが、こちらは外来種についてのコラムですけれども、なるべく本文を簡略化しまして、図19をなるべく大きく示すようにするとともに、下の方のセイウオオマルハナバチの例につきましては、盗蜜することを記載するなどの修正を行っております。

続いて、43ページです。

ここからは、社会環境の現状と課題になりますけれども、まず、科学的知見の蓄積について、現状と課題の記述をもっと厚くすべきというご意見を受けまして、現状の3行目以降のところ、23年度に実施しました文献調査について、市内の動植物の分布の情報や、生息域の拡大縮小傾向を評価するための情報が不足しているということと、本市に限ったことではないですけれども、生物多様性を定量的に評価する方法や保全技術に関する知見もまだ不足しているということを新たに記載しております。

また、課題の2段落目につきましても、市内全域を対象としまして、網羅的かつ体系的、経年的に調査を行っていくことの必要性と、的確なデータの運用及び共有ができるような形で情報を集積していくことをあわせて記載を行っております。

続いて、44ページですけれども、野生鳥獣との共生ということで、触れ合いについても記載をすべきという意見を受けまして、冒頭の3行で、触れ合いの状況について新たに記載を行っております。

また、現状の下から2行目のところに、トラブルの背景について、人の居住地の拡大があるということも言葉として挿入するようにいたしました。

続いて、45ページの札幌市の施策になりますけれども、こちらでは、図20の施策の事例に円山動物園の例を新たに加えております。

続いて、46ページです。

こちら、図の微修正ですけれども、図21のグラフがちょっと見づらいという意見を受けまして、配色の変更を行っております。

47ページについては、NPOなど多様な主体で行われている活動についての評価が書かれていないという指摘を受けまして、現状の3段落目のところに、希少な生き物や生息環境の保全、市民が自然と触れ合う機会の創出、伝統文化の継承など、札幌の生物多様性の保全や普及啓発において大きな役割を果たしているということを記載しております。



また、説明が前後しましたが、多様な主体のうち、事業者に関する記載も抜けておりましたので、2段落目のところで、23年度のアンケート調査の結果をもとに記述を加えております。

そのほか、活動の拠点となる施設について、課題の3行目のところに博物館活動センターを書き加えますとともに、図22の活動事例の写真については、それぞれの写真に説明を加えるようにいたしました。

次に、48ページをご覧ください。

ここでは、法令等による保全に関する課題の最後の2行のところで、低地ゾーンのように、指定を受けていない地域でも保全を推進していく必要があるということに記載しております。

また、図23の地図も、若干ですけれども、大きくするなどの修正を行いましたほか、右のページの表4では、国立公園と道立公園の全体面積を追加で記載しますとともに、各保全の制度の名称のところでは、具体的な地名も例示するようにいたしました。

続いて、50ページの表5をご覧ください。

こちらの修正点としましては、各ゾーンをつなぐ生態系の方向性のところに、水と緑のネットワークの形成ということを新たに記載してございます。

第3章についての修正点は以上です。

続いて、51ページから第4章になりますが、こちらカタクリの写真に差しかえを行っております。

52ページをご覧ください。

まず、基本認識について、前々からわかりにくいというご指摘をいただいております、今回は、「1、基本認識」という形で新たに項目立てを行いまして、まず、冒頭の説明文を簡単にまとめるとともに、各認識については、目標設定に当たっての基本認識を52ページに載せ、施策を展開する上での共通の基本認識として残りの基本認識を53ページに、二つに分けて記載する形で修正を行っております。

続いて、54ページですが、今ご説明しました基本認識の記載の修正に合わせて、冒頭の説明文の2行目の修正を行っております。

次に、56ページをご覧ください。

ここでは、各ゾーンをつなぐ生態系の望ましい姿について、前回の素案では、河川のことだけを記載しておりましたが、今回は、緑のつながりについても含めて記載しますとともに、外来種や遺伝的攪乱対策、野生生物とのトラブルのことなども負の影響として取り上げまして、その上で、地域固有の生物多様性が損なわれることなく、水と緑のネットワークが形成されている姿を描くようにしております。

続いて、57ページですけれども、四つの施策の柱の4番目の生物多様性の持続可能な利用を進めるという柱について、「利用する」という表現から「活用する」という表現に改めております。

続いて、58ページをご覧ください。

ここでは、施策の柱1の本文の下に、前回、イラストを載せておりましたが、そのイラストの意味がよくわからないというご指摘を受けまして、札幌市環境プラザと博物館活動センターの活動事例を紹介するように変更を行っております。

また、右側の59ページでは、施策の方向性の4番目、一番下のところですが、その想定される取組に、生物多様性に配慮した農業の推進ということを挙げておりましたが、今回は、林業も含める形で、生物多様性に配慮した一次産業の推進というように変更を行っております。

続いて、62ページをご覧いただきたいと思います。

ここでは、図24のイメージがわかりにくいという意見を受けまして、本文の中の下から7行目ぐらいからになりますけれども、本文の中でこの図24の説明に相当する文章を追加しております。

また、63ページでは、施策の方向性の4番目、一番下の歴史的文化的資産の継承について、この説明文の修正を行いまして、想定される取組に挙げておりますシティプロモートの推進との整合を図っております。

続いて、64ページをご覧ください。

こちらは、施策の柱4の「活用する」というところになりますけれども、前回、施策の方向性の一番に、自然との触れ合いの充実ということ、柱1からの再掲という形で挙げておりましたが、わかりにくいというご指摘を受けまして、また、今回、柱を「利用する」から「活用する」という表現に改めたことも踏まえまして、新たに、自然を生かすライフスタイルの推進ということを方向性に挙げました。

この中で、自然や生き物との触れ合いを初めとしまして、自然の恵みを取り入れた環境負荷の少ない暮らしの推進や、地域の特徴的な自然を生かして、そこに暮らす人々が誇りや愛着を感じられるまちづくりの推進を図るということを記載しております。

次に、右側の65ページですが、図25のビジョンの体系図がわかりにくいという意見を踏まえまして、今回、図を簡略化しますとともに、このページの上の本文の中でも、図25も説明を行うようにいたしました。

続いて、66ページをご覧ください。

66ページでは、重点取組の1行目で、施策の柱の2を重点的に進めていく理由が抜けているという指摘を受けまして、その部分の記載を行っております。

また、表6については、既存の取組を挙げるのであれば、より具体的にというご指摘を受けまして、今回、青い字で書いておりますけれども、具体の事例を挙げる形で修正を行っております。

また、67ページの山麓ゾーンの2番目と市街地ゾーンの2番目につきましては、説明文についても修正を行っております。

また、この表6の右端の丸の意味もちょっとわかりにくいというご指摘があり、この部

分の見出しを該当する施策の柱という表現に変更しますとともに、それぞれの取組例と各柱とのかかわりぐあいについて、二重丸と丸で濃淡をあらわすようにいたしました。

次に、68ページの各主体の役割についてです。

まず、札幌市の行動例の3番目のところに、大学などとの連携協働により調査研究を進めることを加えております。

次に、69ページの市民の行動例では、4番目で旬のもの、地のものという表現をしておりましたが、地のものの部分を北海道産の食材という表現に改めております。

続いて、70ページの活動団体の行動例になりますけれども、3番目の例示のところでは植樹だけを前回は挙げておりましたが、植樹や間伐などの手入れというふうに始まりのところの言葉をかえております。

また、その下の事業者の行動例では、行動例の2番目のところで、情報の開示だけでなく、提供も行うということを加えたほか、より具体的に行動をイメージしていただけるよう、例えば、下から二つ目のところでは、工事方法の工夫や簡易包装などといった説明を補足するようにいたしました。

続いて、71ページのコラムですけれども、これは、生物多様性に配慮したライフスタイルとはどういうものか、ちょっとよくわからないという市役所内部の意見を受けまして、新たに書き起こしたものになります。持続可能な形で生態系サービスを利用していくための消費行動などのほか、自然と共生してきたアイヌ文化についてもこの中で記載を行うようにいたしました。

続いて、72ページをご覧ください。

ここでは、進行管理につきまして、前回は簡素過ぎるということで、目標があった方がよいというご指摘を受けまして、各指標について、現状値と目標を記載するようにしております。

現状値については、2011年度に私どもで行いました市民アンケートと企業アンケートの結果を記載しております。

なお、「継承する」につきましては、緑地面積などの指標を加えた方がよいというご意見をいただいておりますが、他の個別計画、具体的には、緑の基本計画などで目標設定をされておりますことから、本ビジョンでの重ねての設定は行わないこととしておりますが、生き物の確認種数に大きく影響してくるファクターとしまして、そういった情報については、定期的に把握を行うようにしてまいります。

最後に資料編ですけれども、扉の写真をエンレイソウからチュウヒに変更しております。

また、第3章で整理を行いました生態系の詳しい情報について記載する必要があるというご意見を受けまして、86ページから90ページにかけて、生息している生物や歴史性などをそれぞれ表の形でまとめてございます。

前回の素案に対していただきましたご意見と修正内容等につきまして、私からの説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○村野部会長 それでは、ただいまの説明を踏まえまして、まずは、前回の会議で出された意見に対する修正箇所について議論をいただきたいと思います。その後に、全体を通してのご意見をいただこうと思いますので、よろしくお願いします。

それではまず、修正箇所について、ご意見ご質問等がありましたら、よろしくお願いします。

順番に沿っていきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○西川委員 第1章からということでもいいですね。

2ページの写真をかえていただいた中のアリとマユミは、意味がわかりづらいと思うのです。アリは、多分、みつを吸いにマユミに来たのだと思うのですけれども、あまり一般的でないという言い方をしたらいいのか、例えば、カタクリの種を運ぶアリであれば、アリの食料でもあり、植物にとっても種子散布という役割をしてくれるということで、ある程度自然に興味のある方だとわかってもらえるけれども、アリとマユミをとりあげたのはなぜかと思う方が多いかと思います。もし、いい写真があれば、そういうものにかえてもらった方がいいかと思います。

それから、第1章の5ページですが、この写真で、「生活の糧です」というところに野菜の写真があるのですけれども、ちょっとスーパーの食料品売り場のようなので、例えば、タマネギ畑とか農地といった写真の方が、札幌らしさという面ではいいと思います。

それから、「豊かな文化の根源です」のアイヌ文化のところの写真は、展示品の写真なので、これは、アイヌの方々にも失礼だし、ちょっと考えてもらった方がいいと思いました。

第1章では、私はそれぐらいです。

○村野部会長 それでは、ほかに、第1章で何かありましたら発言をお願いします。

○赤松委員 修正点に限らないで、また返るのも大変ですので、順番に見ていくのであれば順番に見ていくというような感じではどうでしょうか。

○村野部会長 わかりました。

○赤松委員 5ページの「すべての生命の基盤です」のところですが、何となく循環が、森林が水の循環のバランスをといることを書いてはあるのですが、もう少し具体的に、川や海などまでイメージしやすいような言葉を入れたらどうなのかと思いました。

生活の写真については、同じ印象を持っていましたので、検討をいただければと思いました。

○村野部会長 いかがですか。

○柿澤副部会長 非常に細かい話ですが、3ページの写真で、手稲山のバッコヤナギが載っているのですが、手稲山は、山地ゾーンの代表としてあると思うので、その山地ゾーンに適したような樹種を入れていただいた方がいいと思います。

○村野部会長 先に進んでいき、後でまたフィードバックして遠慮なく発言していただくようにしたいと思います。

第2章に入ります。

○西川委員 12ページに、大通の写真が載せてありますが、これは、生物多様性保全とは結びつかないと思いました。これは、時間が経つとこういうふうになるということを示したかったということだと思えるのですけれども、それにしても、大通公園というのはちょっとどうかなと思いました。

それから、約40年後の写真というのは、当然ないわけで、どうなるかわからないということではあるのですね。それは、手法としてはしょうがないかもしれないけれども、もうちょっとよいアイデアはないかと思いました。

それから、14ページです。これは、本当に細かいことですが、一番後の「取組が進められています」の「す」がないです。

それから、17ページのランドマークということで市役所と区役所がつけてあるのですが、かなりうっとうしいですし、余り意味がないような気がするのです。それであれば、周りの市町村を入れるぐらいかなと思います。

○村野部会長 ほかにありませんか。

どうぞ。

○赤松委員 先ほど言い忘れたのですけれども、7ページの図1のアラル海の乾燥化の絵が、びっくりしたカエルみたいに見えて、何か変だなと思いました。あと、この服のよれよれな感じもちょっと寂しいと思いましたので、検討してください。細かいことで済みません。

それから、12ページの写真については、西川委員の意見と同じく、大通にした意味があるのでしょうか。例えば、大通を多様化しようという計画があるのならいいのですけれども、そうではなくて、苦し紛れかなと思いました。

いずれにしても、例えば、もっと古い写真であれば、白黒写真でもパリッとした写真があると思います。ただ、大通はどうかなというのがあります。大通しかしょうがないというのであれば、この写真は、もうちょっと違うものがないかと思います。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 40年前と同じアングルで撮られた写真がなかなか入手できなくて、この大通公園は札幌の古くからのものなのでどうかと思って使った次第ですが、検討させていただきたいと思います。

○赤松委員 具体的な写真がなければ、例えば、土地利用の変遷みたいな図を簡略したものです。そうすると、将来像として、そこに絵を描いてしまうと変になってしまうかもしれないのですけれども、そういうやり方もあるのかなと思いました。

それから、目標年次ですが、2050年と2020年を目途になのですが、結局、ずっと出たり入ったりしていて、どうなったのかなと思っているのは、その行動計画的なところがないままで、そういうものを例えば20年までにつくりますというものもないのか、その辺の具体的ところがここで少し書けるのであれば、書いた方がいいのではないかと思いました。

それから、これも入れ込むことができるかどうかわかりませんが、13ページに愛知目標があります。今度の新しい国家戦略の中では、それぞれの目標が、この国家戦略の目標が愛知目標のどれにつながっているのかということに記載していたと思います。ここと愛知目標のビジョンのつながりみたいなことが、どこかで表現できたらいいのではないかと思います。

それから、15ページですが、これも細かいことです。ここに黒で囲ったさっぽろ圏というフォントはちょっと見えづらい気がします。実際に「圏」の字がかつぶれてしまっています。違うところでもこのフォントを使っていたのではないかと思うのですけれども、これはもう少し見やすい方がいいなと思いました。

それから、事例ですけれども、文章の下に文章がつながっていて、事例がわかりにくいので、囲ったりして、これは事例なのだということがわかった方がいいと思いました。

17ページについては、私もちょっとうっとうしいなというのは同じです。ただ、前回、位置関係がわかりにくいという話もあったので、例えば、薄く区の境界を入れるとか、それはもっとうっとうしいですかね。

そうしたら、例えば札幌駅とか、でも札幌駅だけ突然はおかしいでしょうか。この丸が大きくて字も丸の左側に来ているからかとかいろいろ考えてみたのですけれども、これは少し工夫が要ると思いました。

○村野部会長 私からも一つ、12ページの目標年次です。この目標年次の目標は何を指すのかを、このページで明らかにできないかと思います。54ページに三つの目標があります。この三つの目標を指すわけではないですね。

また、施策の方向性のところでは、また幾つかの目標的なものが出てきますけれども、その辺をちょっと整理していただけたらと思います。少なくとも、目標年次のところに、長期指針として策定しますと書いているけれども、何を目標としているのかも示すべきだと思います。理念として掲げた「北の生き物と人とが輝くまち」を目標として掲げることもできると思います。

いずれにせよ、目標の整理をここでしておく必要があると思います。

いかがでしょうか。

ほかにありますか。

○阿蘇品委員 18ページに動きが書いてあって、調べてこなかったのですが、新しい国家戦略が9月28日に閣議決定されたと思いますので、日本の動きのところに入れてもらえればと思います。

○村野部会長 繰り返しますけれども、13pの愛知目標に戦略計画の中で長期、短期、個別目標が明示されているので、その対比の中で余計12pの内容が問われと思います。ここで目標内容、年度などをすっきりできないかということを検討していただきたいと思います。

○西川委員 21ページの図9なのですけれども、色と線がごちゃごちゃしているのと、

市役所と区役所はやはりとった方がすっきりしていいと思うのです。地の色がちょっと濃過ぎると思うので、もう少し色を薄目に使うなどした方がよい気がします。少し考えてみてください。

あと、23ページの写真は、大きくなってわかりやすくなったのですがけれども、これも色使いが市街地、荒れ地、畑が一緒の感じに見えてしまいます。ただ、この色を変えるのは大変ですね。紫が少なくなってきたのはわかるのですがけれども、もし可能であれば……。○赤松委員 これは、このために新しくつくられた絵なのですか。それとも、どこかの参考資料から持ってきたものですか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 博物館活動センターで使われているものをいただいてきた図になります。

○西川委員 そうしたら難しいですね。無理かもしれないのですがけれども、検討だけはしていただければと思います。

それから、29ページです。

前回、柿澤副部長から指摘があった人工林の取り扱いについてですが、適切な管理をしなければ、林床植物が少なくなるためというのは、そうなのですが、もうちょっと表現に工夫があってもいいと思うのです。例えば、適正な管理をすれば林床の多様性を高めることが可能とか、林床植生の多様性を高めるためにも適正な管理が必要ですか、そういう言い回しの方がいいかと思ったのです。

あと、31ページの希少種のところですが、サルメンエビネからエゾノハナシノブにかえられた理由は何ですか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 写真として、花が鮮明に写っていたものですから、こちらの方が見ばえがいいのではないかと思います。

○西川委員 植物としては、サルメンエビネの方がきっと認知度は高いのかなという感じはあります。

○事務局（金網生物多様性担当係長） ちょっと補足いたしますと、エゾノハナシノブも国や道のレッドリストに掲載されているということと、分布が割と道央が主な生息地だというアドバイスをいただきまして、その意味では、札幌というのは、生息地として重要というか、メインというか、そういったこともアドバイスをいただいて差しかえをしてみました。

○西川委員 わかりました。結構です。

48ページの法令等による保全のところの課題ですがけれども、指定した以外のところも保全していく必要がありますとしています。新たな指定を進めていくという姿勢もここの中に入れられないかと思ったのです。現存の制度の中で新たな指定を進めていくということがあった方がいいかと思いました。

それから、50ページの最後ですが、同じことですがけれども、表5の最後の法令等による保全のところに、指定の促進とか、そういった言葉があった方がいいかと思います。

○村野部会長 ほかはよろしいですか。

○赤松委員 43ページのところで、科学的知見の蓄積というところにデータの運用とか共用という言葉があるのですが、データベースという言葉があった方がはっきりわかりやすいです。もう既にお持ちだと思うので、それをここでもう少しPRしていただくのと、この絵もそういうデータベースで情報を蓄積していくのだと。今までも、観察とか、個人の記録は皆さんお持ちだったのだけれども、ここで何が足りないのかということ、全体としてのここにあるような経年的なといったことがないということと、その蓄積がないということなので、例えば、パソコンの絵があったりするとありきたりかもしれませんが、ためるところをつくっていくとか、それをこんなふうにするのだというものがわかるような文字と絵が入るといいのになと思いました。

それから、この章に限らないのですけれども、いろいろな写真が結構ぼやっとしていたりして、地図がぼやっとしているのは、この印刷のせいなのでしょう。

例えば、48ページの絵も、ちょっと鮮明ではありません。コピーのコピーみたいな感じに見えます。こんなものなのかもしれませんが、例えば、31ページのセイヨウオオマルハナバチが鮮明ではないとか、しかも、下がアスファルトなので余計に見にくいかもしれないですけれども、今、この紙で印刷しているせいで、例えば、実際に配布するときには、もっといい紙なので写真が鮮明に写るのであればいいのですけれども、光沢のある紙なのにこの不鮮明な写真とかこの図というのは、もう少し何とかならないかなと思います。これも、ここだけではないのですけれども、例えば、38ページで、主な生態系のところで四角く囲ってあって、裏がしましまになっているので、人によっては、この字が読みにくいのではないかと思います。私もだんだん読みにくくなってきているので、後ろに色をつけるのであれば、別にしましまにしないで、もうちょっと読みやすいような背景にしてもらったらいいいのになと思いました。

○村野部会長 いかがですか。

それでは、第4章に入りましょう。

○西川委員 54ページの表の目標のアですけれども、自然環境を保全しますということで、なぜ保全するかという説明で、生態系サービスなどが書いてあるのですが、ビジョンは生物多様性を保全するという目標を掲げるものなので、さまざまな生物が生きている場を継承するというのをアの中に入れてやらないと、全体の目標がぼやけてしまいます。

表現が難しいですが、アのところ、例えば、さまざまな生物がつながり合って生きている場を次世代に継承するためというような表現を入れていただくか、もうちょっと適切な表現があるかもしれませんが、それは必要だと思います。

それから、56ページで、先ほど説明の中にあつたのですけれども、各ゾーンをつなぐ生態系の望ましい姿の中に、「(侵略的外来種の拡大や遺伝的攪乱、野生生物のトラブルなど)」と括弧書きで入れてあります。この遺伝的攪乱が、連続化に伴う負の影響なのかどうかというのが、私には理解しがたい気がするのです。



それから、次の57ページですか、文章の真ん中辺に、「地域の目指す姿や取組方法を考え、植樹や間伐、観察、清掃などの保全活動」とあります。必ず植樹とか間伐という言葉が入ってきているのですが、多分、この全体を見たときに、市民活動で植樹がされているので、そういうことを想定されているのはわかるのですが、この部分だけで植樹や間伐と見たときに、これは本当に生物多様性の実践なのだろうかという感じを受けます。植樹は、すべての植樹が本当に生物多様性に貢献しているかという、いろいろ検討しなければいけないことがたくさんある活動だと思うので、これは、とってしまってもいいのかなという気がするのです。

それから、59ページの1、2、3、4と大きくある中の3です。調査分析、情報共有というのが、市民の活動と博物館の二つでやりますというふうにとれます。最初の方に札幌市が大学やいろいろなところと連携して調査を行いますということ掲げているのですが、そういうところが、この3の中からは読み取れません。博物館と市民にお任せしますととれてしまうので、もう少し、札幌市が主体となってやりますと。博物館は札幌市のものですけれども、もう少し札幌市が前面に出てきてもいいのかなという感じがしました。

64ページの施策の方向性の1の自然を活かすライフスタイルの推進のところで、その下に、「太陽光など、自然の恵みを取り入れた環境負荷の少ない暮らしを推進」と書いてあるのですが、想定される取組の中には、そういう具体的なものが入っていません。今後、札幌市として取り組まれることも入れた方がいいのではないかと思いました。

70ページです。

これは、大したことではないのですが、活動団体の最初の文のところで、「他者との連携を進めます」の他者とはもうちょっと具体的に書かれた方がいいと思います。

点線で囲った三つのことがあるのですが、順番から言うと、一番下にあるものが一番上に来るべきかと思いました。そこにも、「植樹、間伐などの手入れや」と書いてあって、それもちょっと違和感があります。

最後の72ページですが、表7の「継承する」というところに、指標種の生息状況とありますが、指標種というのは、ここで突然出てくるので、少し解説が必要かと思います。何を指標種とするのかという議論もされていなかったもので、ここで出てくると非常に唐突な感じがします。目標をある程度入れていただいたのですが、この数値目標はどこから出てきたのかと思ってしまったので、そのあたりの解説といえますか、説明が必要かなと思いました。

○柿澤副部長 最初に質問なのですが、72ページの進行管理のところで、「理解する」の一番最後のモニタリングの実施、「協働する」のNPOなどの提案事業の実施、その下のネットワークの構築、それから、「継承する」の生物多様性マップの作成に関して具体的な年度が書いてあるのですが、これは、札幌市としてこういう方針でやられるという理解ですね。

○事務局（金網生物多様性担当係長） そうです。

○柿澤副部長 それは、すごくよかったと思うのですけれども、そうであれば、例えば、本ビジョンの進め方の重点取組の66ページのところに、もうやると決めて、ここでも「理解する」、「協働する」から、重点的に取組を進めていく必要がありますと書いてあるので、せっかくこういうふうに具体化しようとしているのであれば、そこにも書き込んだ方が、札幌市としてこうやっていくということがよりわかっていいのではないかと思います。

それから、生物多様性マップの作成は、「継承する」なのか、「理解する」なのか、どっちに入るかということも改めて検討していただければと思います。

それから、これもちょっと細かい話ですけれども、本ビジョンの進め方の67ページで、一つは、山麓ゾーンと低地ゾーンの中で、両方の一番上に環境保全への理解を深めるという文言が出てくるのですが、一般的過ぎるので、山麓ゾーンとか低地ゾーンに即したようなそれぞれのゾーンの保全ということにかかわって書いていただいた方がいいのかなと思います。

それから、これも細かい話ですけれども、山麓ゾーンの補植や下刈りよりは、除伐や枝打ちといった保育的なことをボランティア団体を主体に今行っているはずですので、その辺の表現を少し変えた方がいいのかなと思います。

それから、市街地ゾーンで一番上にビオトープなどを活用しとあるのですけれども、学校などでは、ビオトープづくり自身が、理解を深めるということも含めて、活動の一つのテーマになっていると思いますので、ビオトープをつくるというところから、現在、いろいろところで取組がされていると思いますので、そういうふうに表示していただいてもいいのかなと思いました。

68ページの各主体の役割で、改めて気づいたのですけれども、札幌市が前面に出て、札幌市がいろいろな形で展開するというのは、すごくいいと思ったのですが、他の行政機関が抜けてしまって、例えば、国だったら国有林を持っていますし、河川管理を持っていますし、道も同じような形で生物多様性にかかわってきているのですけれども、この各主体の役割の中からは、その二つの主体として、札幌市以外の行政機関というのが抜けているので、改めて項目を起こした方がいいのか、札幌市が他の行政機関と一緒にというふうに表示した方がいいのか、今のところどっちがいいのか私自身も判断がつかないのですけれども、その辺を入れていただいた方がいいと思います。

○赤松委員 これも細かいかもしれませんが、68ページの各主体の役割のところ、生き物の調査とか情報収集や調査研究は、市民もやるというふうに、その後に書いてあるので、この札幌市のところに、大学だけではなくて、そこに市民ともということがわかるように、市民とか活動団体といった文言があった方がいいと思います。

そのコーディネート役を札幌市がやられる、もしくは、事業をつくるということだと思うので、市民という言葉がこちら側にも入っていた方がいいと思いました。

もう一つ、どちらかというと柿澤副部長に質問かもしれないのですけれども、札幌市エリアで森林再生的なことをやっているようなところがあるのでしょうか。あるのであれば

ば、そういうことが書かれてもいいと思います。植樹とかというより、その方がいいと思います。

○村野部会長 野幌森林公園で、森林再生事業が国有林を主体にしてやられていますね。

○赤松委員 あそこは、札幌市ですか。

○柿澤部会長 ほとんど入っていないかもしれない。

○赤松委員 そうですね。あれは札幌市ではないですね。実は、そこにE n V i s i o nの森もありまして、再生のお手伝いもしているのですが、あれは、札幌市でしたか……。

○西川委員 多分、厚別区かな。

○村野部会長 一部だから、野幌は対象になりませんね。

○西川委員 森林再生の写真はどこかに載っていなかったでしょうか。2次林のところか、白旗山かどこかでやっていないですか。私も余り詳しくはないですけども。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 森林ボランティアなどの活動もありますし、教育的な部分でされていると思うのですけれども、イメージされているような、森林再生というのは……。

○赤松委員 再生とか自然再生という言葉が入れられるような活動が、札幌市内にあるのであれば、先ほどの植樹とかをとってしまうより、そういうものが入れられる方がいいと思います。

○村野部会長 企業で、エコキスの森なんかがやっていますね。

○柿澤副部会長 多分、再生ということだと、森林自体というより、河畔林とか、そういう下流部分で少しやっているのはあるけれども、森林自体に関して言うと、ここで言えば2次林的な山を除伐とか枝打ちしてすっきりした山つくって保全をしていきましょうというものが主体ではないかと思います。

○赤松委員 植樹にかわるもので、でも、山や自然の対応度を高めるような活動について、何かいい言葉がないかなと思ったので、お伺いしました。

○村野部会長 それでは、資料編に進みます。

どうぞ、ご意見をお願いします。

赤松委員、どうぞ。

○赤松委員 もしかしたら以前お尋ねしたかもしれませんが、活動団体のリストを載せるのは難しいでしょうか。

もちろん、漏れてしまうものもあるかもしれませんが、そこに載れば元気が出る団体もあると思いますし、助成金をとるときにやりやすいのかとか、何かの形で市民団体を応援するような掲載ができないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 市民活動団体については、95ページのところでも、調査ということで、総括した形でのまとめを挙げております。リストとして、バックデータとしては持っているのですが、今おっしゃられたように、すべてを把握しているわけではなくて、漏れてしまう団体もあるものですから、直接、このビジョンの中で紹介す

るのは難しいかと思っております。今後、いろいろな情報共有の取組をしていく中で、例えば、こういう団体がこういうところでこういう活動しているといったものを、パンフレットなり、ホームページなりで紹介していくことができればいいかと思えます。申しわけございません。

○赤松委員 今の点で、しつこくて申しわけないですけれども、それは資料編なので、例えば、今の時点で把握しているものだけだと漏れているかもしれないけれども、そういうニュアンスが伝わるような形で載せられないでしょうか。

いろいろな自治体もそうですが、私どもも環境省のデータベースをつくる時に、そういった市民団体のリストもつくるのですが、その辺は、ある程度の割り切りが必要で、とはいえ、漏れているかもしれないけれども、今の時点で収集し得ている情報のみの掲載で済みたい注釈を入れることでエクスキューズするというのはどうでしょうか。

もちろん、ホームページになったときには、団体を並べていければ、簡単に加筆修正できると思うのですけれども、できれば、この紙の時点でもあったらいいのになと思います。

○村野部会長 どうぞ、検討してみてください。

非常に役に立ちますので、できればということです。

次に、ありますか。

ちょっと細かいことですが、資料編の用語ですね。用語一覧が出ていますけれども、これには、まだまだ必要な用語があると思いますが、気がついたところでもおっしゃっていただければありがたいです。

参考までに、河畔林がないではないとか、湿地林も欲しいなとか、さまざまな説明の中で述べられている言葉で、ちょっとわかりにくいという言葉があれば、載せていったらいいと思います。

中で説明して重複するものがあっても構わないから、ここに挙げておいた方がいいということがあれば、発言をお願いしたいと思います。例えば、樹林地とか、生態系サービスとか、中に挙がっていると思うのだけれども、ちょっとわかりにくいと思っています。それは、スペースの関係もあると思いますが、よろしくお願いします。

93ページの図について、直し忘れたのかもしれませんが、字が小さいままですね。

これから全体的なことも含めて論議していただきたいと思えますけれども、全体的なもので、何かありましたらお願いします。一つ、発言のきっかけとして、全体のデザインはいかがですか。

例えば、見やすくするためにはどうしたらいいか。項目の問題もあるし、キャプションの問題、それから、ヘッダーの扱い方なども検討すればまだ見やすくなるというのはあると思います。

どうぞ。

○赤松委員 随分よくなったなという印象があるということをお伝えした上で、先ほど幾つか言ったこともあるのですが、例えば、学校でこれを打ち出すときは、白黒で打

ち出されると思うのですよ。地図はしょうがないと思うのですけれども、そのときに、この文字がつぶれないような確認をしてもらえたらいいのではないかと思います。

場所によるのかもしれませんが、行と行の間がかなりくっついているように見えるので、ちょっと読みにくい印象があるのは、私の目のせいだけではないと思います。そこがちょっと気になりました。

繰り返しになりますが、写真や絵の中に不鮮明なものが含まれているので、それはなるべく鮮明になるようにしてもらいたいと思います。

ついでに、全体ではないのですが、先ほど一つ言い忘れていたのですが、35ページの各ゾーンの特徴のところ、山地ゾーンの上に1行だけあって、さっくり簡略的に書かれていて、何か寂しい感じがしました。せめて、17ページにあるゾーンの絵というか、地図があってもいいなと思いました。ちょっとした説明があるといいと思います。16ページが結構前なので、16ページの区分と言われてもという感じです。

ですから、ここにもう少し説明があるか、せつかくある絵をもう一回使って、例えばですけれども、山地ゾーンだったら緑の形だけを抜いて張ってしまうとか、そういう工夫があったらいいなと思います。

○村野部会長 これも細かい話ですけれども、それぞれのページにヘッダーとして生物多様性さっぽろビジョンと出ていて、これはこれでいいのですけれども、ずっと見てみると、タイトルの番号が似たような番号なので、見にくいです。ページ右側の見出しでもこのページがどの章かはわかるけれども、ヘッダーに、生物多様性さっぽろビジョンという言葉の代わりにそれぞれの章の言葉を入れるようにしたらもっとわかりやすくなると思います。

先ほど、12ページの目標年次の中で、大通公園のことが話題になりました。大通公園と限らず、札幌の代表的な場所に変化の解りそうなところを空中写真で示す方法もあると思います。空中写真なら、戦後から年代別に大体あると思います。また、全体の裏表紙にあるカッコー先生の絵は、これはこれでかわいくていいと思うけれども、代わりに、実際に、本文の理解に役に立つように衛星画像か空中写真で現在の札幌市の全域を示すこともいいのではないかと思います。

○赤松委員 もう一つ、物すごく小さいことを言うのを忘れていました。

26ページのカッコー先生の持っている風船の中に白い塊のようなものがあるのですが、もしかして、生物多様性なのか、例えば34ページではいきなり「性」と書いてあって、ちょっとどきっとしたりして、変な感じかなと思いました。

○西川委員 これって、こうやると……。

○赤松委員 そうそう、そうなのだけれども、字が見えないのです。

○西川委員 それに気づく人がいるかどうか。

○赤松委員 「多」というのがだんだん消えていって、最後の「性」だけすごくきれいに見えるのです。何か工夫してください。

○村野部会長 わかりやすくするための提言は、まだあると思うのですけれども、どうで

すか。

○赤松委員 遺伝子の多様性のところですけども、ずっと難しい難しいという話の中で、札幌市の中で多様性を表現するのではなくて、同じ種だけですけども、札幌と違う地域ではこんなに違うのだという事例でもいいのではないかと思います。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 何かよい事例があれば、教えていただくと大変助かります。

○赤松委員 今まで、そういう視点でも探していらっしゃいますか。

○西川委員 魚などはないですか。専門家ではないのでわかりませんが、私は、オオルリオサムシは割といい例だなと思っています。

○赤松委員 これが、違う地域だと、もっと派手な色のものがありますね。

ですから、札幌市の中でこんな対応というのもいいですが、札幌市と違う地域ではこんなに違うというのもいいと思います。玉ねぎよりはいいのではないかと思います。

○村野部会長 はい、どうぞ。

○柿澤副部会長 もう一つ、先ほども出ていたと思うんですけども、字が結構詰まっているところで、文章がずっと続いているようなところが幾つかあります。可能であれば、小見出しを入れるとか、重要なところだけ太字にするとか、そういうことをしないと、普通の人が見ると、見てぱっと眼を背けてしまうようなことがあるかもしれません。その辺は少し工夫をしていただいたらいいと思います。

○赤松委員 63ページの施策の方向性で、想定される取組ということで、それぞれの四角の中でリストが挙がっているのですが、この順番というのは何か意図がありますか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 63ページのところです。

例えば、1番目の生息・生育環境の保全と拡大のところであれば、市の全体的なものから、具体的なものというイメージを最初は持っていたのですが、最後の水と緑のネットワークづくりが順番的におかしいかもしれません。

明確に基準を持って挙げたわけではないので、順番について、こうした方がいいということがありましたら、ご指摘いただければありがたいです。

○赤松委員 今、即座には言えないんですけども、最初に環境アセスメントの運用と出てくると、ちょっと変な感じがします。例えば、これが情報共有のためとか、具体的なものがあればよいですけども、既に具体的なものがあつたり、これはとても重要でとか、多様性の保全には大変インパクトが強いとか、何かの順番であるといいなと思います。

例えば、野生生物との共生のところも、最初が外来種の普及啓発であるとか、この辺の順番は、本筋なものから順番にしていったらいいのではないかと思います。

○村野部会長 今のところと関係するのだけですけども、2の野生生物との共生という言葉には、つき合い方などの普及啓発より以前に、野生生物と触れ合える機会を設けるというか、触れ合う機会の提供とか、実際に野生生物と触れ合う場をつくるということで、想定される取組としては、例えば、自然との触れ合いの推進という言葉などが欲しいと思います。

○事務局（木田環境管理担当部長） 今の野生生物との触れ合いは、具体的に触れる意味の触れ合いのことですか、それとも、観察的な意味の触れ合いなのでしょうか。

○村野部会長 家庭でいえば、野外にどんどん出て、子どもと一緒に自然に触れるようにということなどです。観察ももちろん入るけれども、そういう機会というのは、それぞれのところでは設けてやっているはずです。

○事務局（木田環境管理担当部長） 特殊な生き物で、キツネなどいろいろあるものから、触れ合いという言葉が表現としていいかどうか、ちょっと気になったのです。

○村野部会長 例えば、川の調査をしているとか、川でさまざまな魚とりをするとか、そういうことも触れ合いですね。そういう場づくりが必要かなという気がします。ここに施策の方向性として入れておいてもいいかと思います。

ここはこのままでなじみますか。

○西川委員 今、村野部会長がおっしゃった自然との触れ合いというのは、1とか4のところでは既に触れられていて、2の野生生物との共生というのは、どちらかという、あつれき回避とか、そういう意味でのつき合い方に特化したものだろうと思って見えています。

確かに、野生生物との共生といった場合には触れ合いは必要なのですが、この中にそれを入れてしまうと、意味合いが広がり過ぎて、かえってわかりづらいつらいかなという気がしました。

それから、外来種の中には植物も当然入っていると思うのですが、動物のことがこの中に描かれていると思うのです。例えば、盗掘とか乱獲のようなものもここに入ってくるのです。これも、野生生物とのつき合い方に入っていると思いました。

○村野部会長 ちょっと難しいですね。

○事務局（金網生物多様性担当係長） つき合い方の中には、そういうことも含めて考えていました。

○赤松委員 きっと、「継承する」とつながらないのですよ。

○西川委員 そうですね。「継承する」に入れるのかどうかですね。

○赤松委員 トラブルが継承されてしまう。

○村野部会長 そうなのです。

○西川委員 つき合い方を継承するということですね。

○赤松委員 そうだと思います。

○西川委員 つき合い方を継承するのか、触れ合いを……。

○赤松委員 そう理解するかもしれません。

○西川委員 また最初の議論に戻ってしまいます。

○村野部会長 かえって複雑にしている感じがありますけれども、やっぱり、共生という言葉が総括的なものだけに、逆に、ここでは、共生ではなくて、人の生活に害を及ぼすものの対策とか、そんな表現にしてすっきりさせるという手もあります。

○赤松委員 つき合い方を考えるみたいなことですね。

○村野部会長 このままでよろしいですか。

○赤松委員 野生生物の共生というふうに書くと、多分そういうイメージが、しかもそこに書かれているのがトラブルしか書かれていないというところが何か

○村野部会長 懸案ですね。

○赤松委員 確かにそうですね。

○西川委員 野生生物と共生するルールとか……。

○村野部会長 ほかにありませんか。

まだ時間が少しありますので、資料編で特になければ、きょうの会議全般を通じて何かありましたら、ご意見をください。

○西川委員 具体的なアイデアがないのですけれども、72ページの進行管理の表7のところがまだすっきりしないのです。どういうふうにしたらいいのかという議論を少しできればと思っていますが、いかがでしょうか。

○赤松委員 この指標のつくり方とか目標のつくり方がよくわからないのですけれども、特に「理解する」のところとか「活用する」のところは、アンケートによるもので、アンケートは大分振れ幅が大きいというか、不確定なものだったりします。ある程度の指標にはなるかと思うのですけれども、それだけを指標にするというのは、この表を不安定に見せている要因の一つではないかと思うのですが、では何があるのかと言われると、わかりにくいのですけれども、このアンケートだけというところが……。

○西川委員 アクションプランがなくて、理念ですね。それで具体的な数値を示せないのので、ここで進行管理をどのようにやっていくかというのが難しくなっていると思うのです。

○柿澤副部会長 例えば、そういう面で言うと、指標種等の設定をしてモニタリングの実施を新たに始めるとか、生物多様性マップの作成をまずして、それを使って、例えば、2020年を目標にして、現在は書き込めないけれども、そういうものを基礎としながら、主な生息・生育地における指標種の生息状況みたいなことをもうちょっと具体的に組み込んでいくとか、そういう形で書けないかなと思うのです。

パーセントで出すのはアンケート調査ぐらいしかなくて、ほかのいろいろな計画をつくってもみんなそういう形でやらざるを得なくて、これはしょうがないかなと思いつつ、緑の保全とか、そういうことが別に緑の計画になってこっちに載せられないとなると、そういう面での具体的な指標が何もなくなってしまいますので、せっかくこういう調査をされるのであれば、今すぐには書けなくても、その調査をもとにして具体的に生息状況とかそれにかかわる保全の取組の状況の評価するとか、そのように進められないかなと思います。

○村野部会長 今回のビジョンの中で、具体的に方向性をということで組まれてきたのですけれども、そういったアクションプラン的な、実際に新たにこういうことをしていくのだということが必要だろうと思います。一応は、この進行管理の中で読み取れますけれども、ちょっと弱い感じですね。



学識者からの聞き取りとか、ほかのアンケート調査にも提言がありますね。その中で、絞ってやれそうなものをピックアップして、これをしていくのだということでやるとか、何か具体性があるといいのですけれどもね。

○西川委員 例えば、先ほど、生物多様性マップの作成は「継承する」に入っているのだからという話があったと思うのですけれども、これを「理解する」の方に持って行って、その目標を生物多様性マップを作成するとしてをかがげ、そのために必要な調査をこの期間に進めていく、それぐらいのことだったら書けると思います。「協働する」というのは、市民活動の最初のところでしょうか、そこで具体的な目標がある程度上がっているの、いいと思います。あとの二つは、どうしたらいいのかわからないです。

とりあえず、「理解する」と「協働する」のところから始めましようと言っているの、柿澤副部長が言われていましたけれども、生物多様性マップをつくろうとか、具体的なものを目標に掲げるといことになるのですかね。

それが、わかるような形の表にすれば、少しすっきりするかなという感じがします。

○村野部会長 「継承する」の中で、生物多様性マップの作成が具体的に出ていますけれども、作成が2014年度ということは、2年後ですね。今はもう始めていらっしゃるのか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） いえ、これからということになりますけれども、「理解する」のところ、まず、地域特性を代表する拠点として指標種の設定、モニタリングの実施ということで、2013年度中にその設定を行って、2014年度からモニタリングを始めていくところでその成果をマップに落とししていくと。このマップについては、ここで、2014年度というのはそこから作り始めるということで、完成とは言えないと思うのですけれども、まず、そこでベースになるものをつくって、それを毎年定期的に磨き上げていくというか、より詳しいものを盛り込んでいけるのではないかと考えております。

○柿澤副部長 それだったら、今、西川委員が言われたような形で設定するのがすごくいいのではないですか。

理解をするというのが一つの柱で、今おっしゃられたように、こういうモニタリングの実施をしながら、それをもとに2014年度以降に生物多様性マップを磨き上げていくというのは、基本中の基本ですから、それがやっぱり基本です。あとは、生物多様性活動拠点ネットワークの構築というのが、札幌市としては協働の一つの柱にしようとしているということでよろしいわけですね。

そうであれば、基本構想を作成することがまず大事で、2015年度から推進するとなると、その時点で、目標値や目標像などが設定されて、当面、2020年度まではそれに向かって協働するというものの主要な取組の状況が評価できることになるかと理解したのです。そういうものがあるのであれば、それを積極的に前面に押し出すことで今議論があったようなところがはっきりするのかなと思います。

○赤松委員 継承のところは、施策の方向性として、いろいろな分野のことが書かれていて、環境負荷もそうだし、文化的なこともあるのですが、この進行管理のところには、それが全くないのです。例えば、環境負荷を低減というところは、逆に数字がいっぱいあるようなところではないかと思うのですけれども、例えば、水質もそうでしょうし、数字がとれるもので、もう実際にやられていてというものは、ここの進行管理のところに入れたらいいのではないかと思うのですけれども、それは、ほかの計画で入っているからここには入れられないということですか。

○事務局（金網生物多様性担当係長） 基本的には、具体的な個別計画の中でいろいろ目標を設定してやられていますので、重ねてというふうには基本的に考えていません。

○柿澤副部長 この計画自身は、ほかの計画と連携してやるというそもそもの位置づけになっていますので、逆に言うと、この計画で、生物多様性の保全の話というのは、この計画だけではできない話で、それぞれのところに埋め込まれて、それぞれ分野でもやっていただくことが大事になります。そういう面で言うと、確かに、ほかのところで管理をしているのでこっちの範疇ではないということはあるのですが、モニタリング、評価という面で言うと、全体を通して、ここの分野ではこういうふうになっている、あそこの分野ではああいうふうになっているというのを全体として把握できるような仕組みを庁内の人が連携してつくっていただくことになっていると思うので、進行管理、あるいは、指標などに関しても、一緒にやっていただくようにしないと、ほかのところで数字が出ているからここで書けないとなると、このビジョンの進行管理がほとんどできなくなってしまうと思いますので、その辺は、ほかの部局との調整があると思うのですが、うまく連携して、全体としてほかところの進行管理と合わせつつできるようにしていただかないと、このビジョンの進行管理が難しいのではないかと思います。

○西川委員 繰り返しになるかもしれないですけども、今までの議論を聞いていると、まず、「理解する」のところは、「継承する」のところに書いてある指標種を設定してモニタリングを始めるということと、生物多様性マップを完成させるという目標を掲げてそのための調査をやるということになると思うのです。2番目の「協働する」というのが、生物多様性活動拠点ネットワークの構築が目標になる。3番目は、いろいろな部局で持っているいろいろな数値に関するモニタリングの結果を監視するというか、総合的に評価するということになり、活用するというのは、こういうことなのですかね。後半はいいとして、前半がどうなのかちょっとわからないですけども、そんなことになると思います。

指標、現状、目標という三つのカテゴリーに分けるのがどうかということもありますが、そういう意味合いで表をまとめられれば、少し具体的になるし、札幌市は何をしようとしているのかということが見えてくると思います。

○村野部長 確かに、進行管理のストーリーが欲しいですね。これだと、公表しますだけで終わってしまうので、その後に見直してどうするかということですね。

それでは、これで本日の審議を終わることにしたいと思います。

本日は、部会としての最後の審議であります。これまで、限られた時間の中で多くの議論をいただきましたことに厚くお礼を申し上げます。

この素案は、改善の余地がまだまだあるかと思いますが、本日交わされた議論や意見についてどのように対応されるか、事務局としてのお考えを聞かせてください。

○事務局（大江環境共生推進担当課長）　たくさんの意見や修正点などのご指摘をいただきまして、ありがとうございます。

この後の作業については、もちろん、今いただいた意見を踏まえてもう少し修正させていただきたいと思っております。その修正した素案については、まず、村野部会長と柿澤副部会長に一旦確認していただいて、その上で、各委員の皆様はその内容についてまた見ていただいて、了承をいただく形で進めさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでございましょうか。

○村野部会長　委員の皆さん、それでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○村野部会長　それでは、これからの予定等につきまして、事務局から説明をお願いします。

○事務局（大江環境共生推進担当課長）　今後の予定ですけれども、冒頭でも若干ご説明させていただきましたが、部会での審議は本日の第6回目で最後となります。本日いただいた意見の反映については、先ほどお話ししましたように、これから鋭意修正をさせていただいて、その内容については、委員の皆さんにメールなり郵送なりでお送りさせていただきたいと思っております。

その内容についてご了承をいただければ、次の環境審議会が今月の末に予定されております。これは全体での審議会になりますけれども、こちらで事務局からこの部会の審議内容の報告をさせていただく形になります。

その後の策定のスケジュールについてですけれども、庁内的に、この計画の内容をオーソライズさせる作業が必要になってまいりますので、そのための庁内会議を11月から開始いたしまして、1月までに一般にパブリックコメントを実施して、今年度中に策定、公表する予定で進めさせていただきたいと思っております。

○村野部会長　今のスケジュールに関する説明に対して、何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

それでは、これで事務局にマイクをお返しします。

#### 4. その他

○事務局（大江環境共生推進担当課長）　ありがとうございました。

今回で部会の審議が最後になりますけれども、昨年12月に第1回目の部会を開催させていただきましたしまして、約1年間近く、このビジョンの策定にご尽力をいただきまして、まことにありがとうございます。改めてお礼を申し上げたいと思います。

また、今後、この素案の修正作業をしますし、もちろん完成しているわけではございませんので、さまざまなご意見がありましたら、事務局へ、適宜、ご意見なりご指摘なりをいただければありがたいと思っております。

また、事務局から委員の皆様にご意見を伺わせていただく機会ももちろんあると思いますので、その際には、またアドバイスをいただければありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## 5. 閉 会

○事務局（大江環境共生推進担当課長） それでは、本日の会議は以上で終了させていただきます。

本日は、お忙しい中、活発な意見をいただきまして、まことにありがとうございました。

以 上